

令和5年度地域活性化活動助成事業 活動概要

「日本の心の歌を歌おう」

ミモザの会

代表 大川 幸枝

1 はじめに

次の二つ願いを込め、平成30年7月から始めた取組である。

- ① 美しい歌詞に日本の心が込められている童謡や唱歌を、次世代へと歌い継いでいきたい。
- ② 三世代、四世代が集い、音楽を通して温かく和やかな時を創り出し、地域ぐるみで子どもたちの成長を見つめていきたい。

2 活動の様子

- ・毎月第4土曜日 10:00～11:00
- ・対象は、乳幼児から高齢者までの地域住民
- ・参加者は、毎回20～30名程度（自由参加）

美しい日本のことばにふれ、子どもたちに日本の心を伝えたいという願いから、季節感が感じられる、美しい歌詞で紡がれた童謡や唱歌を選び、毎月、その時季にふさわしい曲を、みんなで歌っている。

参加者へは、毎回、その日に歌う歌詞とともに、この会への思いを綴った「ミモザの記」を配付し、会の終了後には、次回の案内とともに、その回のふり返りを「ミモザの記」に記し、参加者宛に郵送している。毎月2回の発行で、1月末現在で92号になった。この便りが、参加者の心をつなぐものとなれば、という願いを込めて発行している。

社会福祉協議会の職員である男性が毎回参加してくださり、曲にまつわるトークを交えながらピアノ演奏を聴かせてくださるのも、今では恒例となり、それが参加者の大きな楽しみともなっている。毎回2曲程度演奏して下さっているが、時には参加者のリクエストにこたえた演奏もあり、好評である。

併せて、これまで時々行っていた絵本の読み聞かせを、今では毎回行っている。毎月、テーマを決めて、ぬくもりのある内容の絵本を選んでいく。

その他に、本年度は、毎年『祈りの家』で行っているコンサートを、ミモザの会とのコラボで開催しようという企画をして、12月にクリスマスコンサートを

開催したところ、町内だけでなく柳井市からも参加があった。

3 活動の成果

音楽をとおしての交流は、参加者の楽しみになっているようである。集まって、歌詞を味わいながら懐かしい歌を歌い、時には音楽療法も取り入れた活動をし、本の読み聞かせやピアノ曲の鑑賞をするという内容であるが、月に一度のこの時間が、参加者の豊かな時間を創り出しているようである。口コミで、柳井市など遠方からの参加もあり、この会が、様々な人との出会いの場、人と人とをつないでくれる場となっている。音楽の好きな人だけでなく、この雰囲気が好きだという方々が集まって、共に過ごす時間は、癒しのひとときにもなっているようである。これからも、みんなで作るこの豊かな時間を大切にしていきたいと思っている。

4 課題

この活動を始めるに当たり、当初の願いは、子育て世代の方に親子で参加していただき、子どもたちを囲んだ、四世代での交流の場にしたいというものであった。そこで、各小学校で行われる就学時健診や一日入学での「子育てサロン」などの機会に、この会の紹介をして、参加の呼びかけを行ってきたが、なかなか、子どもや、子育て世代の親御さんの参加が難しいのが現状である。

しかし、ささやかな取組ではあるが、この活動を楽しみにしてくださる方が多く、みなさんから親しまれる活動として、今でも継続できるのは、地域を活性化するための一つの活動として、山口県教育会からの助成をいただき、さまざまな方々のご支援やご協力をいただいているおかげである。

周防大島町では、学校統合が進んで地域に学校がなくなり、地域の子どもたちとの交流の場が少なくなっている。中学校のほうでも、地域と学校との連携を図っていくための取組をしたいという希望をもっておられるようなのでこの会が、子どもたちとの交流の場の一つとなればありがたい。そのために、学校への働きかけもしていきたいと考えている。

今後も、地域の方に気軽に参加していただき、また参加してみたいと思っていただけるような、地域の活性化につながるような取組をしていきたい。